



# 学校マニフェスト (中期H18～H23学校運営計画)

## 学校教育目標

子どもたちに「意欲・熱中・満足」を実現します。

### キャッチフレーズ

学校教育目標を子どもたちの分かりやすい言葉で表わし、子どもたちにも学校教育目標の実現を目指して欲しいと願って次のようなキャッチフレーズを設けます。

- わくわくチャレンジ 立野の子** (強い意欲をもって学ぼうとする子ども)  
**ねつれつ熱中 立野の子** (夢中になって活動する子ども)  
**満足キラキラ 立野の子** (活動をふり返り友達のよさや自分のよさを認め肯定的な自己概念を形成する子ども、新たな活動に向かおうとする子ども)

### 具体目標

今の自分に必要な問題を見つけ、わくわくしながら解決しようとする子供を育てます。  
自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝え、ともに響き合いながら、めあてに向かって活動していく子供を育てます。  
相手の気持ちや考えも大切にしながら、問題解決に熱中して取り組み、活動をつくり続けていく子供を育てます。  
自分のよさや可能性に気付き、がんばってきた自分の活動に満足し次の活動に新たな意欲をもつことができる子供を育てます。  
互いに高め合いながら、よりよい自分をつくっていかうとする子供を育てます。

## 学校経営方針

- 子どもたち一人一人に「意欲・熱中・満足」を実現することを通して、学力の向上、個性と創造性の伸長を図る。
- P S Y事業として小中一貫カリキュラムの作成を目指した研究実践を推進する。その過程で教職員の授業力の向上を図る。
- 主幹教諭を核とした職員組織の確立(確実な運営)により学校経営の充実を図る。

## 指導の重点

- 基礎・基本の確実な定着とともに思考力の向上に努めます。
- 学習が自分を含め人間の生活・生き方と結びついていると実感できる授業作りに努め、子どもたちが学ぶ意味や楽しさを見いだせるようにします。
  - 問題解決的な学習や体験的な活動を重視し、子どもたち同士のかかわり合い(コミュニケーション)を活発にすることを目指します。
  - 少人数指導を含め個に応じた指導を充実します。  
音楽会などの行事や学級経営の一層の充実を図り、豊かな心の育成に努めます。  
運動能力の実態把握を基に体育学習の工夫を進め、体力増進に努めます。

## 改善の視点

- 1 基礎・基本の確実な定着や思考力・コミュニケーション能力の向上を目指し教科等の指導の充実を図っていく必要があります。

## 取組目標

- P S Y事業として、仲尾台中学校との連携を深め平成20年度末を目的に小・中学校一貫カリキュラムの作成を目指します。  
(国語、社会、算数・数学、理科、英語)  
少人数授業等、個に応じた指導についてもカリキュラム作成で重要事項として扱います。
- ・小・中一貫カリキュラムの作成については、授業研究を重要な拠り所として推進します。小・中で授業交流を行い、授業力の向上に努めます。
  - ・平成20年度には、文科省研究開発学校として指定された研究である英語活動の年間指導計画を完成します。また、各学年で年間35時間の英語授業を実施できるようにします。

**改善の視点****取組目標**

	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度には、全国小学校社会科研究会全国大会神奈川大会が開催されます。本校は会場校として社会科及び生活科の授業公開することを予定しています。思考力・コミュニケーション能力の向上を目指した問題解決的学習の指導手法を確立するとともに全職員がそれに習熟することを目指します。</li> </ul>
<p>2 人の心を思いやる想像力 礼儀、感謝、真・善・美に感動する心や、規範意識、公共心などの「豊かな心」を育む取組を一層推進する必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度から8：15～8：30を教師にとっての「児童観察・対話タイム」と位置づけ、順次登校してくる子どもたちの健康状況の観察や個々の子どもの心の状況把握を行い、それを基に豊かな心を育むための指導を実施します。また、週に2回、「朝の読書タイム」を位置づけます。(その他の日は別のプログラムで朝の会を実施します。)</li> <li>19年度以降も伝統となっている音楽会を2日間に渡り、作品展を1週間に渡り実施します。</li> <li>各学級とも、年間に1回は道徳の授業を公開します。</li> <li>19年度からは「頑張ろう挨拶と清掃」週間を実施し、年度末の自己評価アンケートで「常に自分から挨拶できる」「進んで整理整頓清掃することができた」と60%以上(19年度)65%以上(20年度)70%以上(21年度)75%以上(22年度)の児童が答えられるようにします。</li> </ul>
<p>3 市全体としても、本校としても子どもの体力向上が課題となっています。(5年間グラウンドが使えなかった)体力向上を図っていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>19年度以降は1,2年生で7種目、3年生以上は全8種目実施とします。このテスト結果を考慮に入れながら、体育授業において運動量を増やす工夫をします。</li> <li>季節に合わせ、鉄棒、縄跳びに子どもたちが自発的に取り組むような工夫をします。また、例えば、縄跳びでは19年度に60%、20年度に65%の子どもが1分間に前跳びを120回以上できるようにするなどの目標を立てて、運動に親しめるようにします。</li> </ul>
<p>4 子どもが学校で安心して安全に過ごせるようにする必要があります。</p>	<p>いじめには学校全体で取り組み、いじめを行った個人単位ではなく学級単位で対策を講じます。日常のさまざまな視点からいじめの発見に努め、根絶に努めます。定期的な質問紙法や、朝の「児童観察・対話タイム」などを活用し、個別面接も織り込みながらの調査を実施することによって実効をあげるようにします。</p> <p>学校安全マニュアルの再点検を行い、改善を加えたものを4月に各家庭に配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立野小PTAで行っている通学路安全パトロール隊を基盤に立ち上げた学援隊を19年度から実質的な機能を発揮できるようにします。</li> <li>山手駅前の交通誘導員事業の廃止への対処として、保護者が19年4月から交代で交通誘導に当たります。</li> <li>自分の身は自分で守ることの出来る態度や力を育成するため、不審者侵入や自然災害を想定した避難訓練を毎月、実施します。</li> </ul>

<p>人材育成の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校だけの傾向ではありませんが、本校には教職員歴6年未満の若い教職員が12人と多く、全体の3分の1を占めています。(教諭は10人)これらの若手教職員の育成を図るため、初任者研修会など教育委員会主催の研修を活用することはもちろんのことですが、校内の研究・研修を充実していきます。とりわけ、授業実践を基にした校内重点研究会の充実、研究発表会の開催を通して、教師力を高めていきます。</li> <li>・各学年とも計画的な学年研究会を毎週行うことを通じて人材育成の実を挙げていきます。</li> <li>・校長、副校長、主幹教諭等が、日々の教育活動において気づいたときすぐに助言・指導するようにします。校長・副校長は週案の点検とコメント記入をすることによって人材育成に当たります。</li> <li>・複雑化する特別支援教育に関わる指導や児童指導に対応するため特別支援コーディネーターを中心とする特別支援教育委員会の計画的な開催及び教委主催研修会等の積極的な研修を活用したり、児童指導に関する市、区、ブロック小中連携等の各生徒・児童指導委員会の担当を組織に位置づけたりします。</li> </ul>
<p>平成19年度の重点</p>	<p>文部科学省指定開発校としての英語活動の研究・実践、カリキュラムの作成を含む、P S Y (パイオニヤールヨコハマ)事業である小中一貫カリキュラムの作成を目指した研究を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P S Y 実行委員会を毎月第一火曜日に開催し、仲尾台中学校と日程を合わせた協働研究を充実します。</li> <li>・両校相互に授業を見合い、カリキュラム作成の基本的な考え方を明確にした上で、単元配列、単元目標、指導計画等、カリキュラム作成の実際に着手します。</li> </ul>
<p>これまでの取組結果</p>	<p>昨年度までの研究を踏まえ、今年度はさらに一步前進するために、中学校からの小学校への授業参加だけでなく、小学校からの授業参加を試みている。そして、9年間で育てたい力について小中で共通理解を図りながら、児童・生徒の実態を踏まえたカリキュラム制作を目指している。</p>
<p>「まちとともに歩む学校づくり懇話会」の意見等</p>	<p>立野小学校マニフェスト案に対し、平成19年1月18日(木)、「立野小学校まちとともに歩む学校づくり懇話会」に意見をいただきました。主な意見は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、立野小学校がしっかりした教育活動に取り組んでいると感じている。今後も成果を挙げていただけたらと思っている。マニフェストはそのために役に立つことなのだろう。</li> <li>・中学校との連携は大事なことである。英語にも立野小学校は長く取り組んでいる。良いことだと考える。Y C A C との交流等も取り入れるとさらに良いのではないか。</li> <li>・立野小の子どもはよく挨拶をしてくれる。挨拶は大事なことだ。私たち地域の人間も子どもが挨拶できるよう努力したい。</li> <li>・心を育むことは、学校だけでやるものではない。本当は、家庭でしっかりやらなければならないことだ。家庭での道徳教育を充実するよう学校は啓発することに力を入れると良い</li> <li>・社会への奉仕、ハンディキャップのある人への手助け等、学校で計画的に取り組めると良い。</li> <li>・職業についての考え方、職業意識に触れさせたい。大人が仕事をしている姿を子供たちに見せたいものである。</li> <li>・急に学校で体力をつけようと言っても、それには無理がある。昔は、家庭生活や遊びの中で体力が培われた。学校だけでは無理。</li> <li>・学校の体育に、運動種目ごとに体育の専門的スキルを持っている人を導入できないのか。</li> <li>・小中学校の連携を進めて、体力の向上もできないものか。</li> <li>・駅前の交通誘導員については、立野小だけの問題ではない。附属小や聖光学園とも連携すべきである。制度がなくなっても現在の誘導員さんに継続してもらえ手だて、経費をすることも大事である。</li> </ul>